

平成 25 年度事業報告及び決算について

(第 30 年度)

平成 25 年 4 月 1 日から
平成 26 年 3 月 31 日まで

I 公一 (森林、林業の啓発と緑化事業)

森林やみどりは、地球温暖化の防止、局地的豪雨の頻発等に対応した山地災害の防止、生物多様性や景観の保全、環境教育や森林セラピー等による健康づくりの場としての利用、緑豊かで潤いのある日常生活環境の確保など多様な機能を持っており、国民が安全で安心して暮らすことのできるようそれら機能を十分に発揮し得る森林・みどりづくりが求められています。

健全な森林づくり、森林・林業の再生、緑豊かな生活環境づくり等について、県民に正しく理解してもらい、参加を促すための様々な取り組みが必要です。

「長野県ふるさとの森林づくり条例」の規定により長野県が定めた「森林づくり指針」に沿って、行政、NPO、地域住民との様々な形での協働を通じて多くの県民の参加を得ながら、地域の実情やニーズにあった森林の整備や身近な生活環境の緑化等に関する実践的活動に重点をおいて事業の推進に努めました。

東日本大震災復興支援事業について、被災村である栄村と連携して導入しました。

平成 28 年に本県で開催が予定されている第 67 回全国植樹祭の機運の醸成に努めました。

1 情報誌等による広報、普及宣伝

森林・林業及び環境緑化に対する県民の更なる理解を深めるため、次の事業を実施した。

(1) 情報誌の発行等

ア 情報誌の発行等

基金業務、森林・林業及び環境緑化等について、県民の理解を深めるため、4 月の緑化シーズンに併せてグリーンキャンペーンのほか、機関誌の発行、その他参考資料の配布を行った。

イ 緑の情報サービスの推進 (ホームページによる情報発信)

当基金が関わる各種行事、巨樹・古木の絵本の PR、緑の募金の使途報告など、ホームページを用いて情報を発信し、広く県民の森林づくりや環境緑化への実践参加を促進した。

ウ 巨樹・古木をテーマにした絵本の制作

緑と水の森林ファンド事業 (国土緑推) の助成を受け、巨樹・古木を通して森林の大切さなど様々なメッセージを子供達に伝える「木が伝えてくれる物語」の絵本を制作した。

- ・ 「こっぱとじっさま」(下伊那郡根羽村) (5冊目、1300部)

2 県民の集い等の開催

(1) ふるさとの森づくり県民の集い（第64回長野県植樹祭）の開催

5月25日、佐久市において、長野県、佐久市、中部森林管理局等と共催して、「美しき森のかがやき永遠に」をテーマに広く一般県民約1,400人参加のもとに第64回長野県植樹祭を開催した。

(2) 地区緑化推進団体による森林の感謝祭などの開催

「緑と水の森林ファンド事業（国土緑推）」を活用して、県下11地区緑化推進団体の実情に即し、森林の感謝祭、植・育樹など体験型の行事等を実施した。

3 講演会の開催等

(1) 緑に親しむ集い

樹木観察や木の実を使った工作など様々なふれあい体験を通じ、県民が森林や森林の恵みに親しむとともに関心を深めることができるよう、県林業総合センターの体験学習施設を利用して、県林業総合センター学習展示館と共催実施し、森林整備作業、自然観察などを取り入れた様々な体験型の集いに287組621名の参加があった。

(2) 森林フォーラム

オーストリア林業の実際を現地で調査した内容と各地で始まっている森林施業地の集約化や民国連携の取組み等を学ぶ講演・報告を長野県、林業関係団体等と共催して実施した。
・平成25年10月24日塩尻市「松本歯科大学」 参加者約370名

(3) 野鳥愛護思想の啓発

小・中学校を対象に、児童・生徒の野鳥を愛し緑を育む心を養うため、野鳥観察、巣箱製作・架設など、野鳥愛護の実践活動を行う小・中学校5校に対して信州の緑と野鳥を守る会を通じて助成した。

4 森林づくり等実践参加の促進

(1) 林業関係等コンクールの開催

林業関係等コンクールを長野県、林業関係団体等と協調して実施し、健全な森林づくりや環境緑化等に係る様々な活動や成果を顕彰し、県民の実践参加を促進した。

ア ふるさとの森林づくり賞及び林業関係ポスター等コンクールの開催

森林づくり、森林環境教育などに優れた功績があった方の顕彰や小・中学校、高等学校の児童・生徒への環境緑化思想及び野生鳥類の保護の高揚を図るためのコンクールを長野県、林業関係団体と共催で実施した。（表彰式 1月15日）

- ・ふるさとの森林づくり賞 長野県緑の基金理事長賞 5団体
- ・林業関係ポスター等コンクール 長野県緑の基金理事長賞 21名

イ 木工工作コンクールの開催

小・中・盲・ろう・養護学校の児童生徒が木に触れあい木を身近に感じ愛着を持ちながら森林の大切さや役割を学び木の文化を大切にすることを願い、身近な木材を活かして自由な発想で創作した木工工作作品のコンクールを長野県木材青壮年団体連合会と共催で実施した。(表彰式 10月26日)

- ・木工工作コンクール 長野県緑の基金理事長賞 1名

(2) 学校林の整備・活用

ア みどりの少年団等森林活動支援事業

児童生徒が行う森林活動を普及推進するため、林業改良指導員がコーディネーターとなり、みどりの少年団等がNPOや地域の指導者等と連携して学校林整備等を行う団体に助成した。

- ・岡谷市立神明小学校他 15校

イ 学校林等の整備

学校林活動の普及促進と森林環境教育の充実が図られるよう、国土緑化推進機構の助成を受け、学校林等の整備を行い青少年の森林体験活動の場と機会を確保した。

事業名 学校林を活用した森林環境教育促進事業
坂城小学校

5 都市緑化等の環境整備

(1) 公園等公共施設の緑化

ゴルフ場の協力を得た(公社)ゴルフ緑化促進会の緑化協力金を受けて、公共施設の緑化を実施した。

区分	地区	事業主体	実施場所・樹種
第71・72回	佐久	軽井沢町	軽井沢町峠町 見晴台 ドウダンツツジ 86本

(2) 大震災被災地の環境緑化等

国土緑化推進機構が都道府県緑化推進連絡協議会とともに実施する東日本大震災復興事業を導入し、大震災で被災した栄村との連携のもと、11月17日、被災村民の生活環境の緑化を実施した。

- ・栄村小滝地区他
- ・植栽樹種等 オオヤマザクラ 16本

6 その他

(1) 第67回全国植樹祭の開催決定

平成28年に開催される第67回全国植樹祭について、長野県知事との連名により、平成24年7月30日付けで公益社団法人国土緑化推進機構会長に申し出て、平成25年8月2

9日の公益社団法人国土緑化推進機構理事会において、長野県での開催が決定した。

9月12日には、第67回全国植樹祭長野県実行委員会が設立され、当緑の基金の理事長が副会長に就任した。

(2) 国土緑化運動・育樹運動標語の募集

県内の小・中・高生より応募のあった作品57点の中から9点を推薦し、中央審査の結果、平成26年用育樹運動標語に次の2点が特選に選ばれた。

- ・ 国土緑化運動標語 「木を植えて 百年先の 森づくり」 (中1 茨城県)
- ・ 育樹運動標語 「木とともに 育て僕らの 豊かな未来」 (中3 沖縄県)

(3) 森の名手・名人の選定

国土緑化推進機構が選定する平成25年度「森の名手・名人」に長野県からは2名が選ばれ、県内の名手・名人は45名となった。

氏名	年齢	市町村	部門	内容
新津 虎芳	68	北相木村	森の恵み	狩猟
笹岡紀美雄	66	野沢温泉村	森づくり	苗木生産

(敬称略)

7 基本財産の運用益

世界的に不安定な経済状況下にあって、経済や景気の先行きが不透明な中、超低金利が続いたが、円安となったことにより、基本財産の運用益について、当初予算では基本財産の受取利息収入を5,023千円と見積りをしたが、決算額は9,652千円となった。

8 出捐金の内訳

平成25年度末 5億8,894万1,668円

(前年度よりの増加額 13万5,681円)

<内訳>

- ・ 長野県 150,000,000円 (25.5%)
- ・ 市町村 123,000,000円 (20.9%)
- ・ 民間 315,941,668円 (53.6%)